

令和3年3月

普及活動報告



事前の打合せで案を検討（2月25日）



リモートで活発に意見交換

京の農林女子ネットワーク × (株) ローソン連携企画 ～サラダの商品開発のための意見交換会を開催～

(8日)

京の農林女子が生産する野菜を使用したサラダをローソンと連携して商品化することを目的に、リモートで意見交換会を開催しました。

メンバーが事前に検討したサラダ商品の案を2つ提案し、それぞれのねらい等を説明しました。ローソンからは材料として適当でない品目やサラダの購入目的に合わせた価格設定等について説明を受けました。

今後は、提案した2案の中からローソンが試作するサラダを試食して意見交換を行い、商品化を目指します。普及センターは、メンバーが商品化のノウハウを身につけられるよう、今後も支援していきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 10名

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年3月

普及活動報告

京都丹波農業応援隊による個別相談会を開催

(10日)



部屋を分けて個別に相談対応

経営規模の拡大や6次化、スマート化等に取り組もうとする農業者を募り、個別に対応する相談会を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、農業者や関係者を一堂に集めた「事業説明会」は開催せず、個別相談会のみとしました。

経営改善に向けた様々な相談や要望を聞き、関連する補助事業の紹介や採択要件などの説明に加え、今後に向けて整理すべき事柄などについて助言しました。

普及センターは今後も、関係する応援隊メンバーと情報共有しながら、経営改善目標の実現に向けた支援を進めます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 52名

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年3月

普及活動報告

「野菜づくりで頑張る」亀岡で新規就農者が誕生 ～実践農場修了式～

(亀岡市：17日)



普及センター所長が修了証書を手交



決意表明する修了生

2年間の担い手養成実践農場の研修を終え、修了式が開催されました。

式では、普及センター所長、市農林振興課長から修了証書が手交され、関係機関、指導者、後見人からの激励の言葉の後、修了生から決意表明がありました。

普及センターからは、柱となる品目を持ち、工夫をこらし、自営で力を発揮してほしいと激励しました。

就農後は、ナス、トウガラシの果菜類の他、大根や白菜など露地野菜で経営していく予定です。

普及センターは今後も経営安定に向け支援を行っていきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 12名

令和2年度の亀岡市での実践農場（準備型）修了者数：2名

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年3月

普及活動報告



普及センターから初期管理について説明



検討会終了後GAP点検表の確認

令和3年度の賀茂なす生産に向けて ～JA京都京野菜部会亀岡支部賀茂な す部会が作付検討会議を開催～

(亀岡市：19日)

JA京都亀岡支部賀茂なす部会の作付検討会が開催され、普及センターから、定植準備としてのトンネル被覆による地温確保や植穴かん水による活着促進、トンネル内の温度管理及び着果促進のためのホルモン剤処理などについて説明しました。また、令和3年度版の農薬一覧表を配布しました。

検討会終了後は地区ごとにグループに分かれ、GAP点検表を相互に確認されました。

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 22名

JA京都亀岡賀茂なす部会員：令和2年度20名→令和3年度18名

昨年の生産：出荷量82t（一昨年84t）、販売金額2,948万円（同3,323万円）

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年3月

普及活動報告

営農状況と今後の経営改善を検討 農業法人経営者と従業員によるミーティングの開催

(亀岡市：23日)

経営課題解決支援の重点指導対象である農業法人に働きかけ、経営者と従業員による今後の経営改善に向けたミーティングが開催されました。

ミーティングでは、栽培や経営課題について話し合う題材として、普及センターから水稻の生育・収量調査結果やKSAS※データ解析結果を説明し、従業員から提案された改善点の具体化について話し合いました。

KSASや水田センサーを活用するための通信環境の整備等、従業員の方からいくつかの提案があり、具体化するための方策について今後も話し合いを続け、改善していくこととなりました。

※ KSAS：農業機械に最先端技術とICTを融合させたクラウドサービスで、ほ場管理情報等をスマートフォンで記録し、対応機と連動して品質・収量の向上や機械の順調な稼働をサポートするシステム



水稻調査結果と課題について説明



改善点について活発に意見交換

場 所 保津公民館

出席者数 9名

令和元～2年度にスマート農業技術の開発・実証プロジェクトを実施
(実証面積24ha)

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年3月

普及活動報告



熱心に現地研修



生育順調で間もなく出穂期

令和3年産ビール大麦の高品質生産と栽培品種切替に向けて現地研修会を開催

(亀岡市：30日)

亀岡市農業振興協議会主催でビール大麦現地研修会が開催され、普及センターから各地区での生育状況を報告した後、出穂期の判断方法を生産者とともに確認し、赤かび病の適期防除を呼びかけました。また、次年作から栽培品種が切り替わるため、現地実証ほど現行品種と生育状況を見比べながら、新品种の栽培のポイントを解説しました。

生産者と関係者全員で、本年産の高品質生産に向けて赤かび病の防除適期の確認と新品种への円滑な切替に向けて情報共有が図れました。普及センターは、収穫まで定期的にはほ場巡回し、伴走支援を行います。

場 所 亀岡市河原林町

出席者数 26名

栽培面積 令和3年産 約87ha (令和2年産 約93ha)

京都府南丹農業改良普及センター